20106
教科書文庫
2
110
M-1983
20106
24625

KODAK Color Control Patches
Kodak

國民教科書

新撰 小學修身訓讀書 六

史料室

3767
K4

南京大學圖書館

南京大學
21635

新訂小學修身訓讀書六

緒言

一此卷是小學中等科第一年前期生修身科訓讀之用也

一聖明垂教訓以憲後代賢哲作傳註以行其義載籍存世與日月爭光後覺踐行不怠則此卷之益豈鮮少哉今章如左

第一章憲第二章憲第三章憲第四

第五章忠恕　第六章孝悌　第七章恭
第八章謹愼　第九章信實　第十章義勇
第十一章廉潔　第十二章公平　第十三章
節儉　第十四章博愛　第十五章寛仁　第十六
章度量　第十七章智識　第十八章勤勉

明治十六年五月

編者誌

新撰

小學修身訓讀書六

木戸　鄰編纂

第一章忠恕

○子貢問フテ曰ハク一言ニシテ以テ身ヲ終ルマデ之ヲ行フ可キ者アリヤ子曰ハク其レ恕カ己ガ欲セザル所ハ人ニ施ス

コト勿レ。
○忠恕道ヲ違ルヿ遠カラズ己ニ施シテ願ハズンバ人ニ施スコト勿レ。
○恕無ケレハ忠ヲ見得ズ忠無ケレバ恕ヲ做スコト出デ來ラズ誠ニ是ノ心有ルヿレヲ忠ト

謂ヒ之レヲ功用ニ見ハスヿレヲ恕ト謂フ
忠恕ノ別ヲ問フ。朱子曰ハク猶形影ノゴトシ忠無ケレバ恕ヲ爲スコト能ハズ。

第二章 存誠

○誠ハ天ノ道ナリ之レヲ誠ニ

スルハ人ノ道ナリ。

○誠ハ物ノ終始誠アラザレバ物無シ是ヲ故ニ君子ハ誠ヲ之レ貴シト爲ス

第三章 忠信

○人道ハ唯忠信ニ在リ誠アラザレバ則物無シ

○心ヲ立ツルニハ忠信欺カザルヲ以テ主本トス

○欺カザルハ卽忠信ノ謂ヒ人實心無ケレバ言行善シト雖終ニ聖賢ノ徒ニ非ズ故ニ心ヲ立ツルニハ必是レヲ以テ主ト爲シ本ト爲ス

第四章慎獨

傳
○慎獨
○獨ハ人ノ知ラザル所ニテ己獨知ル所ノ地ナリ
○欺ニ自欺ト曰ヒ慊ニ自慊スト曰フ是レ意ノ實ナルト實ナラザルトハ人知ルニ及バス我

傳

心裏獨自知ル此ノ處是隱微ナリト雖卻テ是レ善惡ノ由テ分ル所ナリ謹マンバアル可カラズ

第五章正心

○身忿懥スル所有レバ則其ノ正キヲ得ズ恐懼スル所有レバ

則其ノ正キヲ得ズ好樂スル所有レバ則其ノ正キヲ得ズ憂患スル所有レバ則其ノ正キヲ得ズ。

○心ノ物ニ繫ル所以ノ者三ツ有リ事未ダ至ラザルニ先ヅ箇ノ期待ノ心有リ或ハ正ニ事ニ應スル時意偏重有リ或ハ事已應レ過ギテ又留メテ心下ニ在リテ忘ルコト能ハズ。

○三ツノ者一ツ有レバ是レ所謂有所ナリ皆是レ心ノ累ヲ爲シテ心其ノ正ヲ得ザル所以ナリ。

○有所ノ二字ヲ詳エスルニ只是レ人情偏ナル處ヲ說ク蓋人ノ常情多ク喜ブ者有リ多ク怒ル者有リ多ク懼ル者有リ多ク憂フル者有リ但シ處偏重ナレバ便常ニ此ノ一物横テ胸中ニ在リ未正當ノ道理ヲ礙卻スル

コトヲ免レズ此レ存養省察ノ功須臾モ忽ニス可カラザル所以ナリ。

○誠意ノ後已是當ニ喜ブベク當ニ怒ルベク當ニ懼ルベク當サニ憂フベク但密察ノ工夫ヲ少ク。

第六章 持滿

○孫問ヲ滿ヲ持スルニ道有リヤ子曰ハク聰明睿智之レヲ守ルニ愚ヲ以テス功天下ニ被ラシ之レヲ守ルニ讓ヲ以テス勇力世ニ振フ之レヲ守ルニ恂ヲ以テス富四海ヲ有ツ之レヲ守ルニ謙ヲ以テス此レ所謂之レヲ損メ又タ之レヲ損スルノ道ナリ。

第七章 忠信 篤敬

○子張行ハレンコトヲ問フ子曰ハク言忠信行篤敬ナラバ蠻貊ノ邦ト雖行ハレン。言忠信ナ

ラズ行篤敬ナラズンバ州里ト雖行ハレンヤ立テバ則其ノ前ニ參ハルヲ見ル輿ニ在テハ則其ノ衡ニ倚ルヲ見ル夫レ然後行ハレン子張諸レヲ紳ニ書ス

○言行ハ君子ノ樞機樞機ノ發ハ榮辱ノ主ナリ言行ハ君子ノ

天地ヲ動ス所以ナリ愼マザル可ケンヤ

○庸德ヲ之レ行ヒ庸言ヲ之レ謹ミ足ラザル所有レバ勉勵メズンバアラズ餘リ有レバ敢盡サズ言行ヒヲ顧ミ行ヒ言ヲ顧ル君子胡ソ慥々爾タラザラン

○庸ハ平常ナリ。之レヲ謹ムコト至レバ則吉行ヒヲ願ヒ之レヲ行フコトカムレバ則行ヒ言ヲ顧ル隨々ハ萬賢ノ敎

第八章懲忿

○人ノ情發リ易クシテ制シ難キ者ハ惟怒リヲ甚シトス第能

ク怒ル時ニ於テ遠ニ其ノ怒ヲ忘レテ理ノ是非ヲ觀バ亦外誘ノ惡ムニ足ラザルヲ見ル可クシテ道ニ於キテモ亦思ヒ半ニ過ン。

○故怒ノ時ニ於キテ堅ク思ンテ動カス心平ナルヲ俟チテ審

ニシテ之レニ應スベシ庶幾ハクハ失無カラン。

○人ノ不善ヲ爲スハ慾之レヲ誘ケバナリ然ラバ則何ヲ以テカ其ノ慾ヲ室カン曰ハク思フノミ學ハ思フヨリ貴キハ莫シ惟思フテ能ク慾ヲ室ク。

學

○思ヘハ以テ慾ニ勝ツベシ。

第九章 遷善

學

㊀子路人之レニ告グルニ過チ有ルヲ以テスレバ則喜ブ亦百世ノ師ト謂フ可シ。

○過チヲ聞キテ則喜ブハ能ク其ノ驕吝ニ克ツ者ニ非ズンバ

能ハズ驕レバ則自以テ善ト為
レテ人ノ己レヲ譲スルコトヲ
悪ム吝ナレバ則其ノ故常ニ安
ンジテ人ニ従フコト能ハズ子
路カヲ克己ニ用フ其ノ功深シ
○程子子路ヲ賛ム學者之レヲ
師トシテ以テ身ヲ修メ過ヲ補

ハンコトヲ欲スルナリ
○仲由ハ過チヲ聞クコトヲ喜
ンデ名窮リ無シ今人過チ有
レバ人ノ規スヨヲ喜バズ疾ヲ
護テ醫ヲ忌ムガ如シ寧其ノ身
ヲ滅セヒ悟ルコト無シ噫
○人ノ生不幸ニシテ過チヲ聞

カズ過チヲ聞カハ則賢ナル可シ

○苟過チヲ聞カント欲セバ但シ皆サニ一々容レ受クベシ復ヒノ虚實ヲ計ルベカラズ則事小ト無ク人皆告グルコトヲ憚ンテ隱情無シ若シ切切計較シ

必與ニ辨爭セバ恐クハ告グルニ過チ有ルヲ以テスレバ則喜ブノ意ニ非ズ

○過ハ聖賢ト雖無キコト能ハズ蓋過ハ過誤ノ謂ヒナリ其ノ過チタルヲ知テ速ニ之レヲ改レバ則過無シ成湯ノ聖スラ

猶且ツ過チヲ改メテ容ナラズ、顏子ノ賢スラ猶過ヲ貳ビセズ、ト曰フ、此レヲ以テ聖賢ト雖ドモ過ヲ改ムルヲ以テ貴シト爲ルコヲ見ル可シ、若シ其ノ過タルコトヲ知リテ冒速ニ改メスンバ則是レ過ヲ文リ非ヲ遂ゲテ

惡ニ流ル、

○余レ每夜枕ニ就キテ一日行フ所ノ事ヲ思フニ行フ所理ニ合ヘバ則恬然トシテ安寢ス或ハ合ハザルコト有レバ則展轉シテ寢ヌルコト能ハズ以テ其ノ失ヲ更ムルコト有シコトヲ思

フ。

第十章 奪慾 從善

○心ヲ養フハ欲ヲ寡ウスルヨリ善キハ莫シ。

七ノ表 ○慾ハ口鼻耳目四肢ノ慾ノ如シ。人ノ無キコト能ハザル所ト雖然レ𪜈多クシテ節ナラザレ

七ノ裏 バ未其ノ永心ヲ失ハザルモノハアラズ學者ノ當サニ深ク戒ムベキ所ナリ。

○遠カラズシテ復ル悔イニ祇ルコト無シ元吉ナリ子曰ハク顏子ノ子其レ殆庶幾カ不善アレバ未嘗知ラズンバアラズ之

レヲ知レバ未嘗復行ハズ。
○遠カラズシテ復ルハ以テ身ヲ修ムルナリ。
○遠カラズシテ復ルハ君子其ノ身ヲ修ル所以ノ道ナリ。學問ノ道他無シ其ノ不善ヲ知レバ則速ニ改メ以テ善ニ從フノ

ミ。
○劉屏山先生病メル時蔡童子ヲ以テ疾ニ侍ス。一日道ニ入ルノ次挙ヲ請ヒ問フ。先生乃チ曰ハク。吾レ易ニ於キテ應ニ入ルノ門ヲ得タリ。所謂不遠復ハ乃吾ガ三字ノ符ナリ。汝尚ハクハ之

レヲ勉メヨ

第十一章禮樂

○道德仁義禮ニ非ザレバ成ラズ教訓レテ俗ヲ正ウスルモ禮ニ非ザレバ備ラズ爭ヒヲ分チ訟ヲ辨スルモ禮ニ非ザレバ決セズ君臣上下兄弟モ禮ニ非ザレバ定ラズ官學師ニ事フルモ禮ニ非ザレバ親マズ朝ヲ班テ軍ヲ治メ官ニ涖ミ法ヲ行フモ禮ニ非ザレバ威嚴行ハレズ祠祭祀鬼神ニ供給スルモ禮ニ非ザレバ誠ナラズ莊ナラズ是レヲ以テ君子ハ恭敬撙節退讓

レテ以テ體ヲ明ニス鸚鵡能ク言ヘ𪀗飛鳥ヲ離レス猩々能ク言ヘ𪀗獸ヲ離レス今人ニシテ禮無ンバ能ク言フト雖亦禽獸ノ心ナラズヤ夫レ唯禽獸ハ禮無シ故父子麀ヲ聚ニス是ノ故ニ聖人禮ヲ作爲レテ以テ人

ヲ教ヘ人ヲシテ禮有テ自禽獸ニ別ソコトヲ知ラシム

○君子ハ姦聲亂色聽明ニ留メズ淫樂慝禮心術ニ接シ情慾邪辟ノ氣身體ニ設ケバ耳目鼻口心知百體ヲシテ皆順正ニ由テ以テ其ノ義ヲ行フ

○禮樂ハ斯須モ身ヲ去ル可カラズ樂ヲ致テ以テ心ヲ治ムレバ則易直子諒ノ心油然トシテ生ズ易直子諒ノ心生ズレバ則樂ム樂メバ則安シ禮ヲ致シテ以テ躬ヲ治レバ則莊敬ナリ莊敬ナレバ則嚴威ナリ中心斯

須モ和カズ樂マズシテ鄙詐ノ心之レニ入ル外貌斯須モ莊ナラズ慢マズシテ易慢ノ心之レニ入ル。

第十二章 無私

○分亶ノ私アレバ。慢是レ王者ノ事ニアラズ。

○仁ノ道之レヲ要スルニ一ノ公ノ字ヲ道フコトヲ消ウ。
○天下ニ公ナルノ事ト雖若シ私意ヲ用ヒテ之レヲ爲サバ便是レ私。
人有リ無心ヲ說ク。程子曰ハク。無心ハ便是ナラズ只當サニ私心無シト云フベシ。
○天下ノ事下人心ニ合ヒ上天意ニ合ヒ中大道ニ合フ者惟一言有リ。曰ハク公ノミ。
第十三章総旨
○子曰ツヲ絕ツ意毋ク必毋ク固毋ク我毋レ。

○絕ツハ之レヲ無クレ盡クスナリ意ハ私意ナリ必ハ期必ナリ固ハ執滯ナリ我ハ私己ナリ四ツノ者終始ヲ相爲スヲ意ニ起リ必ニ逢ケ固ニ留メテ我ニ成ル蓋意必ハ常ニ事ノ前ニ在リ固我ハ常ニ事ノ後ニ在リ我ニ

至テ又タ意ヲ生スレバ則物欲牽引循環レテ窮ラズ。

○意ハ是レ始メ我ハ是レ終リ必固ハ中間ニ在リ。

○意ハ是レ私意方サニ起ル我ハ是レ私意已ニ成ル。

○意必固我ハ只タ是レ一箇ノ

私心但事前事後ヲ以テ之レヲ
観レバ則四箇ノ名目有リ。
第十四章不愧
○屋漏ニ愧ヂズ。
○屋漏ハ室ノ西北ノ隅ナリ是
レ深密ノ地光漏リ入ル所ナリ。
○屋漏ニ愧ヂズトハ猶ホ暗室

ヲ欺カズト曰フガゴトシ。
○屋漏ハ人ノ至ラザルノ地須
ク是レ戒慎シテ愧作無カルベ
シ君子動テ事ニ應シ物ニ接ス
ルヲ待タズシテ方ニ始メテ敬
ム。
○若子ノ及ブ可ラザル所ノ者

ハ其レ惟人ノ見ザル所カ。
○學ハ閨室ヲ欺カザルヨリ始ム。
○獨立影ニ慚ヂズ。獨寢衾ニ愧ヂズ。
○大丈夫ノ心事當ニ青天白日ノ如クニシテ人ヲシテ得テ之レヲ見セシムベクシテ可ナリ。

第十五章 無悔

○行フトシテ悔ウ可キ無シ。
○前事ノ忘レザルハ後事ノ師ナリ。
○己ヲ罪シ躬ヲ責ムルコト無シンバアルベカラズ。亦當ニ長ク

留ノテ心胸ニ在テ悔イヲ寫スベカラズ。

雜著

○蓋常ニ留メテ心ニ在テ悔ヲ作ストキハ則心體累サレテ動泰ナル能ハズ。

○悔有テ以テ其ノ過チヲ補フコト有ランコトヲ思ヘバ則悔

無シ。

學

第十六章 思性

○心ヲ動カシ性ヲ思ンデ其ノ能セザル所ヲ增益ス。

○其ノ仁義禮智ノ心ヲ動シ其ノ聲色臭味ノ性ヲ思フ。

○向ニ李先生ニ見ユルニ說ク。

レ大段排遣レ去ラズンバ只古
人遺フ所患難ヲ二堪フ可カラ
ザルモノ有ルヲ思フテ持レテ
以テ自比ベバ則チ以テルク安
カル可レト始メハ甚其ノ說ヲ
卑トス以為ク何ゾ此クノ如ク
ナルニ至ント後來事ニ臨ンデ
卻カヲ得ル一有ルヲ覺フ忽ニ
ス可カラズ。

第十七章知言

○我レ言ヲ知レリ。我レ善ク吾
ガ浩然ノ氣ヲ養フ。

○浩然ハ氣大流行ノ貌。

第十八章至節

○志士ハ溝壑ニ在ラン丁ヲ忘レズ勇士ハ其ノ元ヲ喪ハン丁ヲ忘レズ。

○志士固ニ窮ス常ニ死ノ栢徐無クシテ溝壑ニ棄ラレテ恨ミザルコトヲ念フ。勇士ハ生ヲ輕ス常ニ戰鬪シテ死シ其ノ首ヲ喪フ

テ顧ザル丁ヲ念フ。

○學者須ク常ニ志士溝壑ニ在ル丁ヲ忘レザルヲ以テ念ト爲スベシ則道義重ウシテ死生ヲ計較スルノ念輕カラン。

○魚ハ我ガ欲スル所ナリ熊掌モ亦我ガ欲スル所ナリ二者兼

スルコヲ得ベカラズンバ魚ヲ舎テ、熊掌ヲ取ンモノナリ。生モ亦我ガ欲スル所義モ亦我ガ欲スル所ニ者兼スルコヲ得可カラズンバ生ヲ舎テ、義ヲ取ラン者ナリ。生モ亦我ガ欲スル所欲スル所生ヨリ甚キ者有リ。

故ニ苟得ルコトヲ為サズ死モ亦我ガ悪ム所悪ム所死ヨリ甚キ者有リ故ニ患ヒヲ避ケザル所有リ。

○一ノ不義ヲ行ヒ一ノ不辜ヲ殺シテ天下ヲ得ルトモ皆為ザ

○善ク學ブ者ハ死生ニ臨ンデ色變セズ疾痛慘戚レテ心動カズ之レヲ養フコト素有ルニ由ル一朝一夕ノカニ非ザルナリ

○人身ヲ殺レテ君親ニ徇フ者有リ身ヲ愛セザルニ非ズ其ノ身ヲ愛スルコト甚ウレテ之レヲ禮義ニ納レント欲スルナリ

松井甲太郎書

明治十六年二月八日版權免許
同　年　七　月出版

編者　高知縣平民
木戸麟
福岡縣下筑前國那珂郡
春吉村七百十番地

出版人
東京府士族
原亮三郎
東京市本鄉區湯島四丁目
十二番地